

平成23年10月、仙台で開催された日本女性会議で出会った「子育てファミリーのための地震予防ハンドブック～大切な人を守るために今できること～」の一部を皆さんに紹介します。子育て真っ最中のお母さんが未曾有の震災と向き合った経験を踏まえ、混乱を乗り越えた知恵がギッシリ詰まっています。東日本大震災からもうすぐ3年、再度防災について考えてみませんか？



2. グラッ! どうする?

地震発生時の行動ポイント(取材協力: 仙台市消防局)

◆家で子どもいるときに地震が起きたら◆

グラッときたら…

揺れている間にすべきこと「2カ条」

1. 自分と子どもの身を守る!
 - ・落下物から身を守る(クッションなどで頭を保護)
 - ・子どもと離れているときは無理に駆け寄らず、自分の身を守る。子どもにも動かないよう伝える
2. 出口を確保!
 - ・玄関や窓を開け、避難経路を確保する
 - ・慌てて外へ飛び出さない!

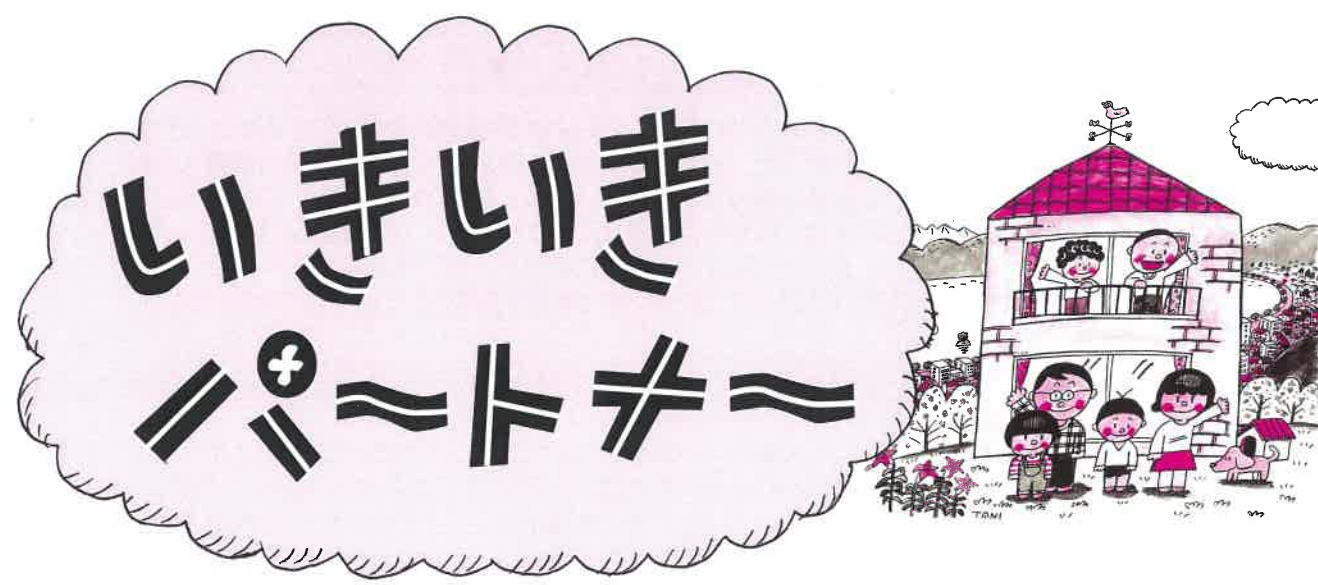
火の始末は慌てずに

- ・火のそばにいたら、すぐに火を消す(ストーブ、ガスコンロ)
- ・揺れが激しいときは身の安全の確保を優先
- ・揺れが収まってから火を消す

正しい情報をつかむ

- ・ラジオやテレビで正しい情報をつかんで行動を
- ・津波情報に注意

これも大事!



🌸 デートDVを知っていますか?



デートDVとは…
交際相手からの暴力。結婚していない恋人同士、学生や若い世代の男女間での体、言葉、態度による暴力のこと

- 〈△▽会社のお昼休み〉
- ♥ 具体的にデートDVってどんなことがあるか知ってる?
 - ♠ 交際相手の携帯電話を見たり、勝手にメールなんかを消してしまうこともそうなんだよ。
 - ◆ お金を借りたまま返さないことや、無理やりものを買わせることもあてはまるよ。
 - ♥ 着るものや髪形を無理やり自分の好みに変えさせたり、セックスやキスを強要したり、避妊しないことも一緒なんだよ。
 - ♣ ええ～そんなこともDVになるんだ。
 - ◆ ただ暴力を振るう身体的なことだけではなく、精神的・経済的・性的な部分も含まれるんだよ。
 - ♠ 普段は優しく見える人も、親密な関係にある相手にだけ暴力を振るうというケースがたくさんあるんだって。
 - ♥ 暴力を振るった後はまた優しくするということの繰り返しで、それを愛情だと勘違いして、なかなか抜け出せないんだよね。
 - ♠ この悪い連鎖を早いうちに断ち切らなくてはダメ! 長引けば心も体もボロボロに傷ついてしまう。
 - ◆ 「辛いな、怖いな」と思ったら誰かに相談した方がいいですよ。
 - ♠ あまりしつこくつきまとわれるようだったら、ストーカー規制法もあるしね。
 - ♥ 今話題になっているストーカーの問題も、こちら辺りに根っこがあるんじゃないかな。
 - ◆ きちんとした知識を持って、お互いを尊重した健全なお付き合いをしてほしいよね。
 - ♥ そうだね、子どもの頃からしっかりと学ばなくてはいけないね。
 - ♠ もちろん、おとももだよ。

◆こんな場所で地震にあったら◆

いつ、どこで地震に遭っても自分と子どもの身を守るよう基本的な行動を頭に入れておこう!

車中で…

- ・ハンドルをしっかり握り、徐々にスピードを落とす
- ・道路の左側に停車、エンジンを止める
- ・カーラジオで正確な情報を確認
- ・津波などの恐れがあるときは車を付けたまま避難する

スーパーで…

- ・バッグやカゴなどで頭を保護しながら商品棚から離れ、比較的開けた場所へ
- ・ゆれが落ち着いたら外へ避難する

エレベーター・エスカレーターで…

- ・エレベーターはボタンをすべて押し、止まったところで降りる。閉じ込められた場合は非常用ボタンを押し続け(停電時も使用可)、救助を求める
- ・エスカレーターは止まった反動でドミノ倒しが起きることがあるので、手すりにしっかりつかまる

電車、バス、地下鉄で…

- ・つり革や手すりに両手でしっかりつかまる
- ・慌てて車外へ出ず、乗務員の指示に従って落ち着いて行動する

津波に注意!

- ・津波注意報、津波警報などが発表されたときは、海岸から離れ高台へ避難
- ・強い揺れでなくても津波がくることもあるので、防災無線(屋外スピーカー)ラジオ、テレビの情報をよく聞く
- ※海の近くへ行くときは普段からラジオを携帯しよう

安全に避難するための心得(取材協力: 仙台市消防局)

自宅の安全が確保されないときは、避難しましょう。子連れで避難する際には、なるべく荷物を軽く持ちやすくすることが重要!

一次避難のポイント

1. 安全な服装(長袖長ズボン、底の厚い靴、軍手)
2. 荷物は10kgが目安(女性一人で運べる重さ)
3. ガスの元栓を閉め、電気のブレーカーを切る(ライフライン復旧後の事故防止のため)
4. 必要に応じて行き先をドアに貼り出す(後から帰宅する家族、捜しに来る人のため)

荷物はリュックに入れ両手を開けるのが基本
重くなる場合はキャスター付きキャリーバッグなどを利用

赤ちゃん目は目の届く前抱っこ(ベビーカーは使わない)

歩ける子どもはリュックで荷物を持たせる
避難中はしっかり手をつないで!

長袖長ズボン
底の厚い履き慣れた靴
軍手も必須

制作: 特定非営利活動法人せんだいファミリーサポートネットワーク
発行: 仙台市子育てふれあいプラザのびすく仙台

諏訪市男女共同参画市民協議会の活動報告

市議員との懇談会 ■5月24日

昨年4月より「男女いきいき諏訪プランV」が施行されました。市民への意識啓発を少しでも進めたいとの思いから、地域に顔の広い市議会議員の力をお借りしたいと、初めての懇談会を開きました。共同参画は議題も多岐にわたるなか、身近なテーマとして「地区役員への女性の参画」「男性の育児参加」の2つを取り上げ、忌憚のない意見交換を行ないました。「区政への女性参画」については、女性自身の意識改革の必要性・区役員組織の見直しなどが指摘されました。「男性の育児参加」については、地域ぐるみでの子育ての必要性、とりわけ「イクジイ」のシニア世代への期待の声も出され、ご自身に重ね合わせる等本音も出たりで、大変有意義な意見を伺うことができました。

ともに生きる諏訪市民大会 ■6月29日 一籠齋春水さん「生きる力を求めて～中村久子の生涯」



講師や声優として活躍する一籠齋春水さんは、3歳で両手足の先を失いながらも興行芸人「だるま娘」として働き、子供たちを立派に育て上げた中村久子の生涯を紹介。祖母が久子に、口を使って縫い物をするのを教えた経緯や、久子の残した「いかなる人生にも決して絶望はない」「人間は肉体のみで生きるのではなく、心で生きる」などの言葉を引用し、逆境でも前向きに生きた久子の人生を講談で語りかけました。約240人の聴衆は、迫力に満ちた生の講談を楽しみ、誰もが生きやすい社会を共に考える機会となりました。会場には、若い世代も目立ち、幅広い年代が来場した市民大会となりました。

先進地視察 ■7月16日 「伊那市女性団体連絡協議会」(伊那市)、「株式会社 KOA」(伊那市)

伊那市女性団体連絡協議会との研修会では、会の発足に至る経過や加入団体数、人数、活動内容の説明を受け、今後の課題などについて意見を交換しました。また、同連絡協議会で制作した紙芝居を見せてもらい、今後の紙芝居制作の参考にしました。株式会社 KOA では、創業の精神や社史、業務全般についての説明を受けてから、2010年に「社員の子育て応援企業知事表彰」を受賞した次世代育成事業の事例を聞きました。育児休業の取得率の高さや管理職への研修など、労使が一体となった次世代育成事業への取り組みに感銘を受け、林に囲まれた周囲の環境の素晴らしさや、社員食堂の充実したメニューに癒された視察となりました。



男女で担う生活サポート講座 ■10月23日・25日 講師：司法書士 小口洋子さん



今年度の講座は、「エンディングノートを作るために」というタイトルで行われ、大勢の人に聴講していただきました。エンディングノートを書く前に知っておかなければならないことがあります。いざという時のために、「相続と遺産分割」と「遺言書」の作成です。遺言書の作成には、どんな手続きが必要か具体的な例を挙げて説明されました。成年後見人の制度のことも話されました。25日の講座では、最後に具体的な事例の質問がたくさんありました。とても有意義な講座だったと思います。

出前講座 ■6月8日 南真志野区、11月8日 有賀区

男女共同参画市民協議会側から「男女いきいき諏訪プランV」などの説明解説がなされ、女性区長経験者からの体験談を聴いて意見交換をしました。両区とも区行政に女性の登用を真剣に考えていて、具体的な方法にどのようなことが必要か、活発な意見交換がなされました。男性が定年後に家庭内のことを行えば女性は区行政に出やすくなる（南真志野区）女性は区内のしがらみが少なく女性の立場での意見や判断でまとまりが得られる、区行政の役員には責任があり、分からないことも多い（有賀区）等が挙げられました。どちらの区でも区行政への女性の参画を積極的に考えていて、あと一押しがあればきっと女性の区役員への参画は実現するものと確信しました。



《2013年 輝いた女》

諏訪圏工業メッセで全日本製造業コマ大戦特別場所を企画した
大東製作所 宮下 紗菜さん



○会社ではどのような仕事をしていますか？

自動車・医療機器・OA機器等の営業です。展示会やお客様回りをしています。相手方は男性がほとんどで、「女性の営業は珍しいね。」と言われる。

○会社にはどのくらいの女性が働いていますか？

社員の半分位は女性です。育休を取ったり時短勤務をしたりして働き続けています。会社では、「長く働いてほしい、子どもを産んでも戻ってきてほしい」と環境を整えています。

○コマ大戦を企画したきっかけは何ですか？

地方予選会で知り合い意気投合して、製造業で働いている女性たちで何かできないかと考え、地元で大会を開催しようと企画しました。製造業に携わっている女性は思いのほか多く、日頃頑張っている女性たちにスポットを当てたいという思いもありました。

○実際に行ってみてどうでしたか？

メンバー同士が遠かったため、直接あって打ち合わせをすることが余りできず、電話やメールのやり取りで苦労しました。しかし、参加が募集の2倍以上もあり、また子どもたちにも人気があり盛況でした。多くの女性の参加や協力があって、いろいろな方々とのつながりができました。今後も勉強会を開いたり、お互いの工場見学ツアーをしようという話も出ました。

○今後の製造業界について

今までの3K(きつい、汚い、危険)ではなく、「精度のいいものを作ることは「カッコいい」、それを作っている過程に「感動」する、精度の高いものは「きれい」だ」という新3Kを目指しています。

○働いている女性に一言

もっと前へ、表へ出てみればいいと思います。出ていったところいろいろな人に会えます。いい経験になります。

※最近結婚されたそうですが、仕事と家庭・子育て両立したいとおっしゃっていました。今の環境であれば働き続けられそうですね。来年も是非「女子力」で何かやってほしいと思います。大いに期待しています。

日本赤十字国際支援事業で諏訪赤十字病院から医師以外で初めて海外派遣(フィリピン)された助産師



諏訪赤十字病院 助産師 山並 航さん

○助産師という職を選ばれた理由は？

赤ちゃんや子どもに関心がありました。産科の実習はとても楽しかったですし、実際に子どもを取り上げた瞬間はとても魅力的でした。こんな子どもたちと関わっていけたらと思ったからです。

○現地で男女差別を感じましたか？

日本よりも平等に感じました。かつては女性大統領も出ていますし、州知事や市長も女性が多くいます。赤十字の支部長も女性が多いです。失業率が高く、海外へ働く場を求めて出ていく人もあり、看護師・ベビーシッター等女性の方が職があるようです。都市部では貧富の差はありますが、男女差はないと思います。

○女性の結婚観について

10代で結婚して子どもをたくさん産むことが幸いで、それがあたり前のことと思っています。家族を大切にするという国民です。

○現地の女性はたくましく働いていますが

医療施設が整っていないため、自分たちで何とか工夫して、病気にならない、いかに健康に過ごすかを考えています。妊婦さんの多くは普通に生活し、子どもを抱えてバフフルに動き回っています。とにかく女性はバイタリティーがあります。

○結婚と仕事についてどのように考えていますか？

仕事は大好きです。海外へも行きたいです。自分の子どもも産みたいです。職場にはモデルとなる多くの先輩方がいますので、見習っていきたく思います。

○海外へ出てみて改めて日本の女性の生き方について感じたことがありますか？

日本の女性は選択肢がたくさんあると思います。職が選べて生活ができる、日本は豊かな国だと感じました。

※「フィリピンの女性はとにかく強い」とおっしゃって、いろいろとお話していただきました。(全部掲載できなくて残念)仕事も楽しくて仕方がない感じが伝わってきましたし、優しい見た目からは想像できないオーラを纏っているなと感じました。仕事も頑張してほしいと思います。素敵なお子さんも産んでほしいと思います。どんな子育てをするのが楽しみです。

“親子でサッカーボールで遊ぼう” ■11月4日 保育園保護者会連合会共催事業

今年度も諏訪市中央公園スポーツ広場で、「親子でサッカーボールで遊ぼう」を行いました。諏訪市サッカー協会の指導の下で、保護者会連合会役員のお母さんとお父さん、女の子も男の子もみんなが一緒にボールを追いかけて体を動かしました。サッカーを通じて家族みんなが一緒に過ごす事で、「ワーク・ライフ・バランス」を考える機会になったのではないかと思います。



編集後記

今回も二人の女性にインタビューをしました。お二人ともいろんな人と出会って話をすることにより、いろんな世界が見えてきて楽しく、自分の前進のためによい刺激になったとすてきな笑顔で話されました。人とのコミュニケーションの大切さをまたまた感じ、女性、男性区別なく絶えず前向きな人はすばらしいなと思いました。